

鷹南學園



平成30年度 鷹南学園の評価・検証 結果報告

| | | |
|------|---|--|
| 検証項目 | 1 コミュニティ・スクールの運営 | |
| 目標 | ①運営を持続可能にする体制作りを進める。 ②「鷹南っ子生きる力育みプログラム」(挑戦心・やり遂げる力・協働する力)の活動を持続可能にする。 ③学校経営の協議機関としての取組を重点におく。 | |
| 取組 | ①持続可能なCS委員会のため、CSによる行事の精選や会議の効率化を図る。 ②「鷹南っ子生きる力育みプログラム」の活動を持続可能にするため、CS委員会において、取り組みの精選と会議の効率化を図る。 ③学校経営の協議機関としての取組を重点におくため、授業公開や学校行事にCS委員の方に積極的に参加していただく。授業公開の際には、委員の方々からの感想や改善意見が反映できるよう、観察カードへの記入を依頼する。 | |
| | 成果 | 課題と改善方策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンプアッププランにおける4つの重点テーマにのっとり、意図的・計画的な取り組みを進めた。とりわけ、鷹南コンサート、大人向けメントレ等の教員の参加が上がり、学校組織としてコミュニティ・スクールの運営に寄与できた。 ・授業公開、学校公開での感想、意見や学校評価などにより、本校の児童・生徒育成上の課題等が明確になった。 ・学校生活アンケート項目「仲良く協力する」は、7月・12月ともに9割が肯定的評価をした。スポーツメンタルトレーニングを踏まえた取り組みが般化し、行事等の集団凝集力やチームとしての一貫した取り組みが奏功していると考えられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール委員会の取組に学園生の参加率が低いことが課題である。有意義な取り組みであるので、授業の中に組み込み、学園公開時に行うことで、学園生のみならず、保護者地域にも取組の意義を周知する。 ・異文化交流やスポーツメンタルトレーニングなどの取り組みをより多くの人に参加・参画できるよう時機や場面を工夫する必要がある。 ・学校長が明確な経営指針を打ち出し、意図的、計画的にコミュニティ・スクールとしての運営をしていくことが課題である。次年度の方針と重点的な取り組みについて、CS委員会だけではなく、年度当初の保護者会全体会等で周知を図り、年間を通して広報活動を工夫していく。 ・授業公開への参加者が増加しなかったことから、今後も、積極的な発信と内容の検討が必要である。 |
| 検証項目 | 2 小・中一貫教育校としての教育活動 | |
| 目標 | ①昨年度の相互乗り入れ授業の検証を受け、引き続き生徒の学力向上、教員の指導力向上につなげる。 ②学園行事の内容の精選を行い、交流活動を充実させる。 | |
| 取組 | ①小学校6年算数へ、中学校数学への相互乗り入れを行う。 連絡会議は定期的を実施し、学力向上のための方策を検討する機会とする。 ②きょうだい学年交流、子ども熟議の実施、3校連絡会は実施する。 | |
| | 成果 | 課題と改善方策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れ授業では、連絡を密にする具体的な方法をコーディネータを中心に推進したため連携をより深めることができた。また、乗り入れをはじめとする小・中一貫にかかわる取組の課題の洗い出しができた。 ・「きょうだい学年交流」や「子供熟議」はねらいを明確にして実施でき、学園としての一体感をもたせることができた。 ・幼・保の年長を含めた、10年間にわたるきょうだい学年交流は、よき先輩の姿を見る機会となり、自らの役割認識の具体化に貢献している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れ授業により学園生の学力向上が保障されているかどうかは課題である。学力向上のねらいを明確にし、担当の教員にも負担がなく、達成感のある取組になるように工夫することが課題である。また、乗り入れ授業などの取組のねらいが明確でなく、指導内容についての検討も不十分であったことから、打ち合わせの時間の確保と管理職による評価を実施する。乗り入れの仕方のほか、小・中教員同士の交流の活性化に工夫も必要である。 ・学園生自身が目的を理解し、主体的な取り組みができるようにしていくことが、これからの学園の10年間の運営に大きく影響する。学園10周年の記念集會も含め、ねらいを明確にし、学園生が主体的に取り組めるような学園の取組を工夫していく。 |

| | | |
|------|---|--|
| 検証項目 | 3 (知) 確かな学力 | |
| 目標 | ①新学習指導要領移行を踏まえた授業改善 ②基礎学力や学習習慣の定着を進める。 ③鷹南スタンダードの定着を図る。 | |
| 取組 | ①思考力等を重視し、主体的・対話的で深い学びとなるよう授業改善に取り組む。 ②地域未来塾や生徒会を活用し、学習支援をしながら家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③鷹南スタンダードの定着のため保護者への周知徹底と自己申告等にスタンダードの取組を記入させる。 | |
| | 成果 | 課題と改善方策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領のねらいに即した授業に向けての授業改善が進んでいる。 ・学園研としては、三鷹小・中一貫カリキュラムに基づく授業研究により各分科会で授業改善の視点での9年間の系統的な学びについて研究できた。校内研では、英語、英語活動を視点として、当初予定していなかった授業研究にまで踏み込むことができた。 ・ノートへの記述を通して、量的・質的両面において、高まりを確認することができた。思考力や表現力の高まりの指標と考える。 ・SS、地域未来塾のサポーターの人数を増やすことができ、授業や補習において子供たちへの支援を厚くさせることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・鷹南スタンダードをさらに意識する必要がある。そのために、幹事会での協議を活用していく。 ・家庭学習の定着が不十分であることから、9年間の発達段階に応じた課題の出し方の検討・9年間の学びの系統性を踏まえ、本学園、本校の実態に応じたカリキュラムの作成とアクティブ・ラーニングの日常化を図る手立てを実践することが課題である。 ・学園研では、教員がそれぞれの分科会で、共通理解を図りながら具体的に何をどのように改善していくか主体的に自己の考えをもって参加できるようにする。校内研では、日常の授業をいかにアクティブにしていけるかをねらいとして研究組織、方法、内容を工夫し毎日の授業に還元できるような研究を進める。 ・地域未来塾における人材と時間の確保、及び、対象となる児童の選定基準に関して、実施前に整備する。 |

| | | |
|------|--|---|
| 検証項目 | 4 (徳) 豊かな人間性 | |
| 目標 | ①「鷹南スタンダード (生活のスタンダード)」を定着させる。(みそあじ言) ②人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。 ③望ましい態度や習慣を身につけ、自立して生活する力を育てる。 ④自己有用感や肯定感を高め社会性を育てる。 | |
| 取組 | ①鷹南スタンダードを周知徹底するとともに、教員の自己申告書に盛り込む。さらなる家庭との連携を図っていく。 ②東京都道徳教育推進拠点校や 人権尊重教育推進校の指定を強みに、さらに人権教育、道徳教育、支援教育の充実を図る。 ③カリキュラムマネジメントを踏まえて様々な教育場面で自主性や主体性が育つように指導を工夫する。 ④きょうだい交流・中学生のボランティア活動・学校行事を通して自己有用感や肯定感を高める。 | |
| | 成果 | 課題と改善方策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を通して、自己肯定感の高まりを意識した取り組みが学校教育全体で行えた。教員の人権意識の向上は、中原小学校の研究も踏まえ向上できたことが学園としての成果である。 ・道徳教育推進拠点校として指導と評価について研究を進め、学校としての体制が構築できた。 ・学園交流の取組など、具体的な実践により、学園生としての心の育成が図れた。校内委員会の計画的な実施により、より組織的に個の児童に対しての具体的な支援が実施できたことも成果である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学園としての鷹南スタンダードの活用方法については、多岐にわたる視点があり、取り組みの不徹底やばらつきが目立つようになっている。そのために、重点項目の具体化や精選等が図れるか検討する。また、発達段階に応じた取組について意見交換、情報共有が必要である。 ・今までの学園として取り組んできた人権教育、道徳教育を基に、各教科との関連や心と体を一体としてとらえる体育的な視点から意図的、組織的に向上させていくことが今後の課題である。 ・カリキュラム・マネジメントの視点をより明確にし、課題に応じたねらいをもった取組を実践しなければならない。重点的なカリキュラム・マネジメントの視点を持ち学力、体力とともに豊かな心を育む実践を行う。 |

| | | |
|------|--|--|
| 検証項目 | 5 (体) 健康・体力 | |
| 目標 | ①拡大幹事会を活用し、学園における健康・体力育成上の課題に対応する。 | |
| 取組 | ①拡大幹事会では今年度も「体力部会」を設定し、調査等を分析する。教育課程編成や授業改善のための資料の作成を行っていく。 | |
| | 成果 | 課題と改善方策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果分析を通して、鷹南学園全体そして各学校の課題を具体化することができた。 ・分析結果を踏まえ、実態や課題を組織的に共有し、具体的な策を考えることができた。 ・スポーツメンタルトレーニングは、継続的な取り組みが必要であることを理解し、高学年や保護者向けに実施することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上には、継続的・意図的な運動機会の保障が必要なことから、取り組み内容の具体化を図る。また、9年間での変容(個々の)を分析することが必要なことから、学園としてのデータ管理と活用を図る。 ・本校の体育的な環境や子どもの実態に応じた具体策を講じていくことが、課題である。体育の授業改善や家庭との連携による運動習慣、生活習慣の改善等をねらいとした「体力向上全体計画」を作成し、4月から具体的な取組を開始する。 ・メンタルトレーニングの意義を十分に理解し、教員が日々の活動の中で指導できるようにしていくことが課題である。来年度は、CS 員会のサポート部と連携し、具体的な改善策に従って有効な実践を行う。 |

| | | |
|------|---|--|
| 検証項目 | 6 特色ある教育活動 | |
| 目標 | ① キャリア教育の充実を図る。 ② オリンピック・パラリンピック教育の充実を図る。 | |
| 取組 | ① キャリア教育の一環として、地域の人財を活用し、働くことへの興味や関心を高める。 ② オリンピック・パラリンピック教育の推進を通して、体力の向上や国際理解教育の推進を図る。 | |
| | 成果 | 課題と改善方策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年での実践を継続的に実施できたことは成果である。 ・おやじの会にご協力いただき鷹南の地域人財による授業が展開できた。 ・合同自然教室や児童会・生徒会交流、本校の特色である ICCP での国際交流やハンドマッサージによる高齢者交流、その他、幼稚園や保育園との交流活動等、目的を明確にし、計画的に実施できたことが成果である。 ・オリンピックとして元水泳選手、パラリンピアンとしてバスケット選手を招聘し、本物との出会いの場面を設定した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特色あるキャリア教育も交流活動もただ実施するだけではなく、児童が日常の教科の学習の中で培った力を生かす場としてカリキュラム・マネジメントしていくことが課題である。次年度は、特別活動に特化したカリキュラムマネジメントに基づき、総合的な学習の時間や生活科などの交流活動においても汎用性のある力を伸ばすことを視点に計画していく。 ・キャリア教育の深まりが必要であることから、地域貢献等、一員としての意識を高める取組を充実する。 ・開催まであと1年を踏まえ、実践的な関わり方を考える機会を設定するほか、本物との出会いは継続することで、意欲や意識の高まりを目指す。 |

| | | |
|------|--|---|
| 検証項目 | 7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革 | |
| 目標 | ① 教員のタイムマネジメント力の向上 ② 地域行事等への参加の工夫等 ③ 完全閉庁日の設定 ④ 部活動指導の見直し | |
| 取組 | ① ICTを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにする。 ② 地域行事については、年度当初から見直しをもち、計画的に参加ができるようにする。 ③ 完全閉庁日（休暇取得推進日）を設定し、完全遂行する。 | |
| | 成果 | 課題と改善方策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域行事への計画的参加、完全閉庁日実施に向け、具体的な策を講じることができた。 部活動指導の在り方について見直しが図られた。 年2回の勤務時間調査を通して、その実態が明確になった。 | <ul style="list-style-type: none"> 完全閉庁日の更なる拡大のため、校内警備等、施設・環境管理の長期的遂行が必要となる。 働き方改革の推進に当たっては、外部人財との意見交換を基にした効果的な活用が必要である。 地域とのかかわりをもちながらも働き方改革に対する意識はもてたが、実労働時間としての結果には課題がある。効率的な仕事の仕方や地域行事への完全割当制など第2次働き方改革案を提案し、実施していく。 |

平成30年度 鷹南学園の評価・検証結果のまとめ

| | |
|-----------------------|---|
| (1) から (7) の検証結果を踏まえて | 1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと |
| | <ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの充実 道徳教育の充実 人権尊重教育の推進 子ども熟議、大人熟議の充実 鷹南コンサートの更なる発展 |
| | 2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること |
| | ①開園10周年に当たり、取り組みの「継承と発展」を目指す。 ②鷹南版小・中一貫カリキュラムの作成 ③鷹南スタンダードの見直し ④CS 関連事業や地域との連携における学園生やその保護者の参加・参画者の拡大 |
| | 3 「2」の重点課題を解決するための改善策 |
| | ①年間を通じて、学園生や地域・保護者とのつながりを意識し、当事者意識をもって取り組めるようにする。 ②各教科分科会における学園研(小・中教員連携及びカリキュラム検討) ③教務・生活・研究部による鷹南スタンダードの重点具体化 ④実施時機及び場面の検討(防災教育、異文化交流、スポーツメンタルトレーニング等) |